

# 東洋経済／第20回CSR調査(2024年)

## 3.環境編

ご依頼しております「東洋経済・CSR調査」のうち、「環境編」についてのご回答をお願いいたします。  
ご多用中誠に恐縮ですが、8月20日(火)の期限までに「窓口ご担当者様」を通じて、ご返送いただきたく存じます。

●御社「環境編」ご回答担当者欄(前回ご回答いただきましたご担当者様名等)を出力しております。変更がある場合は、赤字でご修正ください。  
※ご返送いただけない場合は、青字表示データを中心に掲載させていただきます

御社名： <b>㈱東洋経済工業</b>	ご回答担当者名： <b>東洋太郎</b>
※傘下会社名： (御社が純粋持株会社の場合に記入)	同、部署名： <b>環境管理部</b>
※単体ベース以外でのご回答の場合、その内容：	同、TEL： <b>03-3246-0000</b>
小社使用コード： (この欄は小社で入力)	同、FAX： <b>03-3242-0000</b>

小社東洋経済CSRオンラインにご用意しております「ご回答の手引き」をご参照のうえ、ご回答ください。

●以下の各項、前回ご回答があった場合、その内容を青字で出力しております。  
今回変更がなければそのまま、変更があれば、赤字でご修正または新規ご回答をお願いいたします。  
※緑字は前回時点のデータで参考情報です。赤字でご回答がない場合は未回答となりますので、後日弊社担当者よりご確認させていただく場合がございます。ご注意ください

### Q1 環境対策担当部署の有無(1つ選択)

① 専任部署あり ~~2. 兼任部署で担当~~ 3. なし 4. その他 ( )  
担当部署名( **環境管理部** )  
※直近の名称でご回答ください。ご担当部署が複数ある場合はそれぞれご回答ください  
注記

### Q2 環境担当役員の有無(1つ選択)

① 専任役員あり ~~2. 兼任役員あり~~ 3. なし 4. その他 ( )  
担当役職名・肩書( **常務取締役環境管理部長** )  
担当役員の担当職域のうち、環境関連業務が占める割合(1つ選択)  
1. **100%** 2. 過半 3. 半分以下  
注記

### Q3 環境方針の文書化(環境報告書など。原則公開されているもの)の有無(1つ選択)

1. **あり** 2. なし 3. 作成予定  
Web上での公開の有無 → 1. **あり** 2. なし 3. 公開予定  
注記

### Q4 環境会計あるいはそれに準ずるものの有無(1つ選択)

① あり 2. なし 3. 作成予定  
⇒上記で「1. あり」「3. 作成予定」を選択した場合にご回答ください  
費用と効果に関する金額把握について(1つ選択)  
1. ~~環境省ガイドラインに準拠して把握~~ 2. 自社独自あるいは業界独自方法で把握 ③ 両方(1、2)  
4. 費用のみ金額把握 5. 金額は把握していないが、一部物量は把握している  
6. 特に把握していない 7. その他 ( )

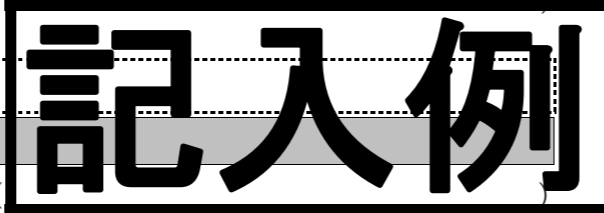
### 環境会計あるいはそれに準ずるものの公開について(1つ選択)

1. **公開** 2. 非公開 3. 公開予定

### 環境会計あるいはそれに準ずるものの算定範囲について(1つ選択)

1. 単体ベース 2. **連結ベース** 3. その他 ( )

注記



### Q5 環境データ・環境会計データ等についてご回答ください

環境保全コスト (単位:百万円)	2022年度		2023年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト	<b>1,264</b>	<b>3,803</b>	<b>1,184</b>	<b>4,012</b>
上・下流コスト	<b>3</b>	<b>195</b>	<b>0</b>	<b>134</b>
管理活動コスト	<b>7</b>	<b>531</b>	<b>1</b>	<b>535</b>
研究開発コスト	<b>27</b>	<b>868</b>	<b>136</b>	<b>1,297</b>
社会活動コスト	<b>0</b>	<b>128</b>	<b>1</b>	<b>215</b>
環境損傷対応コスト	<b>0</b>	<b>133</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
合計	<b>1,301</b>	<b>5,659</b>	<b>1,322</b>	<b>6,193</b>

環境保全対策に伴う 経済効果(実質効果) (単位:百万円)	2022年度	2023年度
費用削減額	<b>1,166</b>	<b>922</b>
収益額(リサイクルなど)	<b>697</b>	<b>773</b>
合計	<b>1,863</b>	<b>1,695</b>

環境保全効果に関する 環境パフォーマンス指標(環境負荷量)	2022年度	2023年度
総エネルギー投入量 (GJ)	<b>1,265,900</b>	<b>1,247,500</b>
特定管理対象物質投入量 (t)	<b>124</b>	<b>87</b>
水資源投入量 (m <sup>3</sup> )	<b>4,195,000</b>	<b>4,284,000</b>
温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	<b>65,441</b>	<b>62,814</b>
特定化学物質排出量・移動量 (t)	<b>467</b>	<b>587</b>
廃棄物等総排出量 (t)	<b>1,977</b>	<b>1,489</b>
リサイクル率(%)	<b>80.5</b>	<b>90.5</b>
総排水量 (m <sup>3</sup> )	<b>1,568,000</b>	<b>2,169,500</b>
NOX (t)	<b>140</b>	<b>132</b>
SOX (t)	<b>186</b>	<b>172</b>

注記 **集計範囲は国内連結会社、海外グループ会社は除く**

### スコープ3による温室効果ガス排出量の集計状況について(1つ選択)

1. **集計している** 2. 集計していない 3. 今後予定 4. その他 ( )

### サプライチェーン排出量 (t-CO<sub>2</sub>)

	2022年度	2023年度
スコープ1	<b>9,241</b>	<b>8,800</b>
スコープ2	<b>56,200</b>	<b>54,014</b>
スコープ3※	<b>1,020,000</b>	<b>1,009,000</b>

※上記で「1. 集計している」を選択した場合にお答えください

### スコープ3の算定対象の 카테고리(すべて選択)※

- 1  2  3  4
  - 5  6  7  8
  - 9  10  11  12
  - 13  14  15  その他
- (原則、2023年度の算定対象)

### 環境データにおける第三者検証・保証の有無(1つ選択)

1. **あり** 2. なし 3. 検討中  
4. その他 ( )

注記 (サプライチェーン排出量・第三者保証等)

### Q6 環境監査の実施状況について(1つ選択)

① 定期的実施 [→実施頻度は:内部監査( **年2回** ) 外部監査( **年1回** )]  
~~2. 不定期に実施~~ 3. 実施していない

4. その他 ( )

注記

Q7 EMS(環境マネジメントシステム)の構築について(1つ選択)

- 1. ISO14001認証を取得
- 2. ISO14001認証を取得予定
- 3. 自社独自のEMSを構築
- 4. EMSは構築していない
- 5. その他 ( )

注記

Q8 ISO14001の取得事業所割合を算出基準(1つ選択)とともにご回答ください(概算値でも結構です)

※Q7で「1. ISO14001認証を取得」以外にご回答いただいた場合でも、ISO14001と同等のEMSを独自に構築できているとお考えの場合は下記設問もご回答ください

(国内) 国内全事業所に占める取得事業所の割合( 100 %)
算出基準 1. 従業員数ベース 2. 事業所件数ベース 3. 生産量ベース 4. その他 ( )

(海外) 海外全事業所に占める取得事業所の割合( 80 %)
算出基準 1. 従業員数ベース 2. 事業所件数ベース 3. 生産量ベース 4. その他 ( )

注記 自社EMSの適用割合で回答

Q9 環境(CO2排出量・原単位削減を含む)に関する中期計画についてご回答ください

環境分野に関する中期計画の有無(1つ選択)
1. あり 2. なし 3. 検討中 4. その他 ( )

その中でCO2排出量・原単位削減に関する中期計画の有無(1つ選択)
1. あり 2. なし 3. 検討中 4. その他 ( )

COP21(パリ協定)の内容を中期計画作成で参考にしているか(1つ選択)
1. 参考にしている 2. 参考にしていない 3. 検討中 4. その他 ( )

参考にして作成した内容( 2030年度に2015年度比60%削減を目標に環境投資(設備の更新など)を推進する )

環境(CO2排出量・原単位削減を含む)に関する中期計画を具体的な数値等を含めてご回答ください(目標年度・比較年度・削減率・対象範囲など、200字程度以内)

(例) 目標〇〇年度に、△△年度比●●%削減、××年度比▲▲%削減、対象は国内全工場、生産・物流・開発設計別など

目標2014年度に2009年度比排出量、原単位ともに18%削減、対象は全工場
2025 2015 50

Q10 2023年度の環境対策について具体的な目標・実績をそれぞれテーマ別に2つまでご回答ください(目標を達成できたとお考えの場合はチェックをしてください)

※緑字前回時点のデータです。新たにご回答ください

緑字部分をそのまま(または一部を)ご回答とする場合は該当部分を 赤色 で囲んでください

2023年度目標(設定・範囲、数値など具体的に)	2023年度実績
<b>CO2排出量・原単位削減</b> (例) 原単位:20XX年度(▲,▲▲▲t-CO2)比20%削減 20%削減	
① 2015年度比40%削減(原単位)	17% 19%
②	
<b>エネルギー削減</b> (例) 電力消費量:前年度(▲,▲▲▲kWh)比5%削減 15%削減	
① 電力消費量(原単位) : 2011年度比4%削減	5% 15%
② 上水使用量 : 40m3/人以下	43m3/人
<b>リサイクル</b> (例) 再資源化率:90%以上 95%	
① 再資源化率 : 90%以上	91% 90%
②	
<b>廃棄物削減</b> (例) 廃棄物等総排出量:20XX年度(▲,▲▲▲t)比10%削減 10%削減	
① 焼却廃棄物発生量 : 1万t/年以下	8000t
②	

注記

目標が達成できたとお考えの場合はチェックしてください

(Q10続き)2023年度の環境対策について、具体的な取り組みがあればご回答ください(100字程度以内)

水使用量の削減活動を推進し、18年から目標を継続して達成

Q11 グリーン購入について

事務用品等のグリーン購入比率について(概算値でも結構です)

対象範囲	本社および主要事業所	
2022年度	92.5 %	2023年度 95.8 %

注記

グリーン購入の取り組み状況について(1つ選択)

- 1. GPN(グリーン購入ネットワーク)ガイドラインにのっとり、グリーン購入を実施
- 2. 自社独自指針にのっとり、グリーン購入を実施
- 3. グリーン購入は行っていない
- 4. その他 ( )

注記

Q12 原材料調達についてご回答ください

原材料のグリーン調達について(1つ選択)

- 1. 包括的なガイドラインを定め、それに従って実施
- 2. 部分的なガイドラインを定め、それに従って実施
- 3. 原材料のグリーン調達を行っていない
- 4. 業態として原材料の調達は必要ない
- 5. その他 ( )

取引先への対応状況について(すべて選択)

- 1. 取引先等への指導を行っている
- 2. 取引先等の評価を行っている
- 3. その他 ( )

実施されている具体的な取り組みについてご回答ください(100字程度以内)

グリーン調達基準に加え、独自の生物多様性ガイドラインを策定し、サプライヤー向け勉強会を実施

Q13 環境ラベリングの取り組みについて(すべて選択)

業態として特に取り組む対象がない→ (チェックしてください) ※チェックした場合、以下の設問にはご回答いただかなくて結構です

- 1. エコマークなど第三者審査を受けた環境ラベルによって環境情報を開示
  - 2. 自社独自基準による環境ラベルで環境情報を開示
  - 3. ISO14020でのタイプⅢ型環境ラベルで、全工程における環境負荷を定量的に開示
  - 4. 特に取り組みは行っていない
  - 5. その他 ( )
- 上記環境ラベリングを行っている製品・サービスの、全製品・サービスに占める割合(概算値で結構です)
- 1. エコマークなど →( 100 99 %) (注記 製品売上ベース)
  - 2. 自社独自ラベル →( ) % (注記)
  - 3. タイプⅢラベル →( 80 ) % (注記)

注記

Q14 環境リスクマネジメントについてご回答ください

事業活動で大きな自然環境汚染が発生する可能性の有無(1つ選択)

- 1. あり
- 2. なし
- 3. 不明

⇒ 上記で「1. あり」を選択した場合、想定している自然環境汚染等を具体的にご回答ください(100字程度以内)

工場排水による周辺の河川の汚染

(Q14続き)将来発生する可能性がある環境改善、排出、事故等にかかる費用の準備(保険、引当金、積立金等)の有無(1つ選択)  
1. あり 2. なし 3. 検討中 4. その他 ( )

環境リスクマネジメントの取り組み(手法なども含む)について、具体的にご回答ください(100字程度)

ISO14000に準じて環境影響評価と緊急事態への準備及び対応を行っている

事業所敷地内等における土壌・地下水の汚染状況の把握について(1つ選択)

取り組み対象がない→  (チェックしてください) ⇒ 「4. 把握していない」をお選びいただかなくて結構です。

1. 数量等を把握し公開 2. 数量等を把握しているが未公開 3. 部分的な把握にとどまっている  
4. 把握していない 5. その他 ( )

水問題の認識について(1つ選択)

1. 経営に大きな影響を与える 2. 今後大きく影響すると予想  
3. 特にリスクとは考えていない 4. その他 ( )

想定している水問題について、具体的にご回答ください(100字程度)

気候変動などによる水不足。工場排水による水質汚染

水問題の解決のための取り組みについて、具体的にご回答ください(100字程度)

昨年より事業所ごとの取水量と排水量を測定し、使用水量の削減に向けた取り組みをスタートさせた

注記

Q15 環境関連法令等についてご回答ください

順守のために大きな労力をかけているとお考えの環境関連法令を国内、海外それぞれ2つ程度ご回答ください

国内  
海外

①大気汚染防止法 ②水質汚濁防止法

欧州RoHS指令

環境関連法令違反等について(それぞれ1つ選択) ※「あり」を選択した場合、「件数(件)」をご回答ください

	2022年度		2023年度	
	有・無・不明	件数(件)	有・無・不明	件数(件)
環境関連法令違反	あり・なし・不明		あり・なし・不明	
環境問題を引き起こす可能性のある(あった)事故・汚染	あり・なし・不明		あり・なし・不明	1
環境問題に関する苦情	あり・なし・不明		あり・なし・不明	2

注記

Q16 環境に関する特筆すべき表彰事例がありましたらご回答ください(各年度2つまで)。最初に表彰名(20字程度以内)、続いてカッコ内に主催者、受賞対象(50字程度以内)をご回答ください(具体例は「ご回答の手引き」をご参照ください)

2022年度	① 第30回地球環境大賞国土交通大臣賞 (フジサンケイグループ主催)
2022年度	② ( )
2023年度	① 省エネ大賞(省エネ事例部門) (省エネルギーセンター主催)
2023年度	② ( )

注記

Q17 事業活動による環境への影響(気候変動、生物多様性等)についてご回答ください

気候変動対応に関する取り組みについて(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. その他 ( )

気候変動に関するシナリオ分析について(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. 検討中 4. その他 ( )

(Q17続き)再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱など)の事業所、本社ビル等への導入について(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. 検討中 4. その他 ( )

再生可能エネルギーの利用(使用)率の把握について(1つ選択)

1. 把握している 2. 把握していない 3. その他 ( )

⇒ 上記で「1. 把握している」を選択した場合、利用(使用)率をお答えください

2022年度	15.6 %	2023年度	20.5 %
--------	--------	--------	--------

※原則、「総エネルギー(電力)使用量」に占める「再生可能エネルギー(由来)使用量」の割合。小数第1位まで、同第2位を四捨五入。注記欄には対象範囲等をご回答ください

注記

再生可能エネルギー導入について、具体的な事例を2つまでご回答ください(100字程度以内)

本社ビルに太陽光パネルの設置

カーボンプライシング(炭素税、排出量取引制度などを含む)に対する認識について(1つ選択)

1. 経営に大きな影響を与える 2. 今後大きく影響すると予想  
3. 特に影響はない 4. その他 ( )

社内炭素価格(インターナル・カーボンプライシング:ICP)について(1つ選択)

1. 導入している ⇒ ( 5,000 円/t-CO2) ※原則、2024年6月末時点  
2. 導入していない 3. 検討中 4. その他 ( )

注記

環境影響評価(アセスメント)の取り組みについて(すべて選択)

1. 義務づけられたことは行っている 2. 独自の取り組みを行っている 3. 独自の取り組みを検討している  
4. その他 ( ) 5. 業態として特になし

実施頻度や内容 ( )

事業活動による生物多様性への影響の把握について(1つ選択)

1. 事業活動による影響について把握している 2. 把握していない  
3. その他 ( ) 4. 不明

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)開示への対応について(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. 検討中 4. その他 ( )

生物多様性の保全プロジェクトへの支出額(単位:百万円)

2022年度	0.12	2023年度	2
--------	------	--------	---

生物多様性の保全に関する取り組みについて、具体的な事例を3つまでご回答ください(200字程度以内)

①インドネシアの絶滅危惧種生物の保護活動 ②本社敷地内に東京に生息する20種の野生植物を育て、保護  
③タイの国立公園で熱帯林の再生プロジェクトに参加

プラスチック削減の取り組みについて(1つ選択)

1. あり 2. なし 3. 検討中 4. プラスチックは使わない 5. その他 ( )  
内容 (製品に使用するプラスチック素材の削減)

容器包装の削減の取り組みについて(1つ選択)

1. あり 2. なし 3. 検討中 4. 容器包装などは使わない 5. その他 ( )  
内容 (トレーでの提供を中止)

環境ビジネスの取り組みについて(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. 検討中 4. その他 ( )  
内容 (太陽光発電による売電事業)

カーボンオフセット商品・サービス等の提供・取り組みについて(1つ選択)

1. 行っている 2. 行っていない 3. 検討中 4. その他 ( )  
内容 (製造から廃棄までに排出したCO2をオフセットする環境配慮型商品を提供)

●ご回答ありがとうございました。お手数ですが、「窓口ご担当者様」を通じて、ご返送いただきたく存じます。

調査表のご返送先 東洋経済新報社CSRデータ開発チーム 東洋経済「CSR調査」受入専用窓口 ◆Mail: accept-csr@toyokeizai.co.jp  
住所: 〒103-8345 東京都中央区日本橋本町1-2-1

調査内容に関するお問い合わせ先 CSRデータ開発チーム (Mail: csr@toyokeizai.co.jp)